

2019 年 03 月 12 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【E C B（欧州中央銀行）がフォワードガイダンスを変更】

F X取引において、E C B（欧州中央銀行）の金融政策は、最重要のテーマ（材料）である、と考えます。

先週の E C B 理事会で、金融政策の変更があったことに、注目すべきと考えます。

+++++

先週の 3 月 7 日（木）に、E C B 理事会が開催された。

理事会後のアナウンスメントでは、市場の事前予想通りに、政策金利の据え置きが発表された。

ところが、域内の成長やインフレが予想を下回ったことで、フォワードガイダンスの変更が発表された。

フォワードガイダンスの変更は、市場が事前に予想していなかったことだ。
（つまり、市場参加者にとっては、サプライズであった）

従来のフォワードガイダンスは、「金利を、少なくとも 2019 年年央まで据え置く」だった。

新たなフォワードガイダンスは、「金利を、少なくとも 2019 年いっぱいまで据え置く」に変更された。

2019 年内の金利引き上げの可能性はゼロになった。

ドラギ総裁は、「2020 年 3 月までの金利据え置き」も議論したが、期間が長期になると問題が起こるリスクを考慮し、「2019 年いっぱい」に留めた旨、説明を付与した。

つまり、ドラギ総裁は、2019 年内どころか、少なくとも、「2020 年 3 月までの金利据え置き」になる可能性が十分に高いことを示唆した。

また、域内企業への資金貸出を維持するために、貸出条件付き長期資金供給オペ（T L T R O）3 の開始を発表した。

+++++

先週（3月7日）のECB理事会のアナウンスメントで、欧州域内の景気悪化が明白になった、と言える。

ユーロの政策金利の引き上げは、当分の間、可能性が無いと決定した。

また、域内の銀行の一部で、貸し渋りが起こっていることを、ECB自身が発表した、と言える。

つまり、EC域内の一部の銀行に不安（リスク）がある、ということ。

具体的な言及がないので、個人的な憶測になるが、イタリア、スペインあたりの一部の銀行を支援することが目的と推量する。

+++++

（2019年03月12日東京時間13：30記述）